

珠洲市立緑丘中学校

学級数：7学級 生徒数：147人

【テーマ】

「がん」と共に生きる社会で、幸せに暮らしていくには

## 1 はじめに

本校ではがん教育については、保健体育科保健分野でがんの予防をはじめ、生活習慣病の予防、受動喫煙防止など関連させて学習をしている。また、道徳での生命尊重など他教科との横断的な取り組みにより、がんについて考える機会を設けている。

アンケートの結果から、生徒はがんについて学習することは、健康な生活を送るために役立つことであると考えている。また、「がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい」という項目に対しては、ほとんどの生徒が肯定的な意見を答えている。しかし、がんの治療方法やがん罹患からの生活について問われた項目については、生徒の考え方はそれぞれ異なっており、2、3次予防についての知識が少ないことや、がん罹患することで生活の質を保つことができなくなるなど、マイナスイメージを強く持っていることが伺えた。

そこで今年度のがん教育のテーマを『「がん」と共に生きる社会で、幸せに暮らしていくには』とした。今までの実践に加えて、2・3次予防や共生に視点を向け、外部講師の方から実際の経験談やがん教育に対する思いを知ることにより、多面的・多角的にがん予防について考えることができると考えた。

## 2 実践

### (1) 外部講師との連携について

生徒の実態を踏まえ、今年度外部講師として、自身もがん経験者であり現在は石川県が

ん安心サポートハウスでピアサポートをしている久田 充子氏にお願いした。

指導案検討会では生徒の実態を共通理解するとともに、講師の方の経験やがん教育に対する考え、生徒への思いを聞き取りながら、検討を行った。指導案検討後は、連絡を密に取りながら、事前学習で出てきた生徒から講師の方への質問項目に対し、回答を事前に考えて頂く中で、さらに授業が深く広がりのあるものになるように、本時の課題や発問を精選した。

### (2) がん経験者とのT・Tによる授業

#### ① Q & A形式により生徒自身が疑問を解決

授業では生徒自身が事前学習で考えた質問をもとに、自ら質問し講師の方に答えてもらうQ&Aの形式で行った。事前に質問を準備しておくことで、生徒の積極的な発言やその後の追加の質問、感想にもつながることができた。



#### ② 講師からの質問を通じて視点を広げる

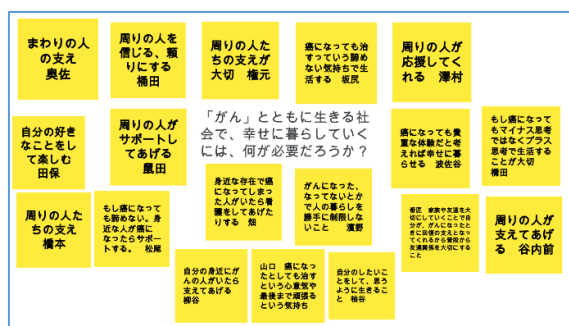
生徒が質問をするだけでなく、アン

ケート結果から感じた講師の方の疑問「実際がんになった方は、どんな生活を送っていると思うか」を質問して頂いた。ペアや全体でイメージを共有し、がん患者の生活のイメージに対するズレなどに気付くことができ、がんに対してより広い視野で考えることができた。



### ③ ICTの活用により学びの共有

本時の課題「『がん』とともに生きる社会で、幸せに暮らしていくには、何が必要かだろうか?」について考えたことを、シャムボードを使用し、全体で共有した。また、生徒の考えを受け講師の方が気になったことに追質問していただき、生徒自身の考えをより具体的にし、考えを深めた。



### (3) 生徒の感想

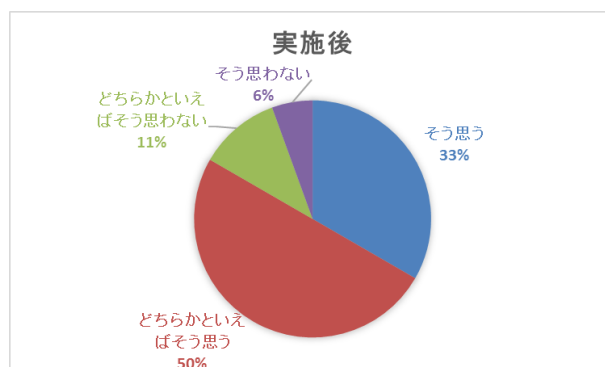
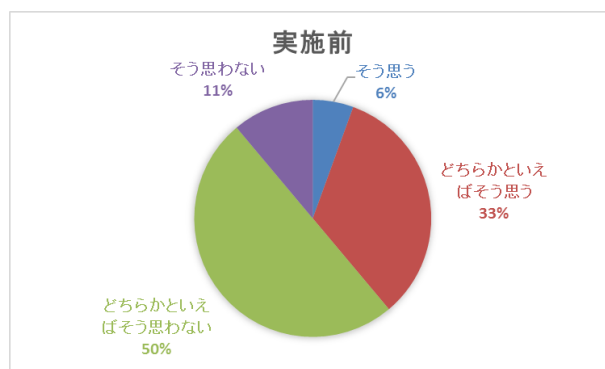
・がんは誰もがなる可能性のある病気で、自分の行動次第で治る可能性があるということを知りました。だからこそ、がんになったからと言って差別したりせず、周りの人たちが支えたり、自分が頼ったりすること

が大切だと感じました。これからは、検診をしっかりと受けて、健康な生活を心掛けていきたいです。

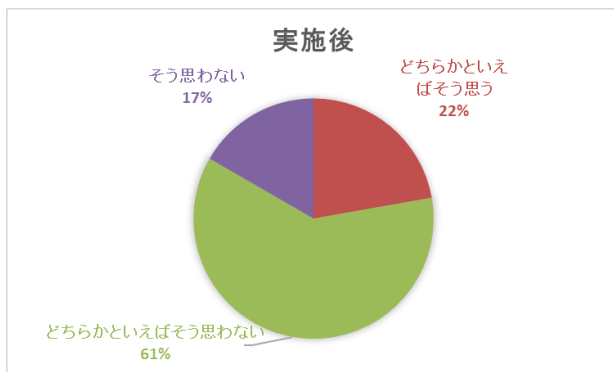
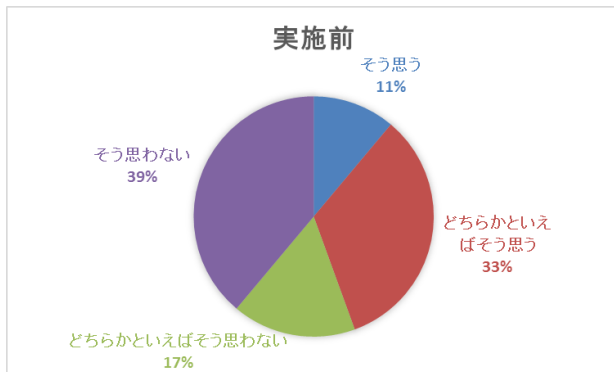
- ・自分がドラマとかを観てて考えていたがんと、実際になった人が経験したがんとでは、全然違うことがいっぱいあった。がんは自分になってもおかしくないくらい身近な病気だから、生活習慣とかを少しでも良くして、できる限り予防していきたいと思った。
- ・久田さんの話を聞いて、大変なこともあるかもしれないけど、がんになったからと言って、そこで人生が終わるわけじゃないし、治療することもできると知れて良かったです。私の家族でがんになった人がいたので、今回の授業で、がんについてもっと知れて良かったです。これから自分ももしかしたら、がんになるかもしれないし、身近な人になるかもしれないので、そのときは周りをちゃんと頼ったり、サポートしていったりしようと思った。

## 3 生徒アンケートの結果

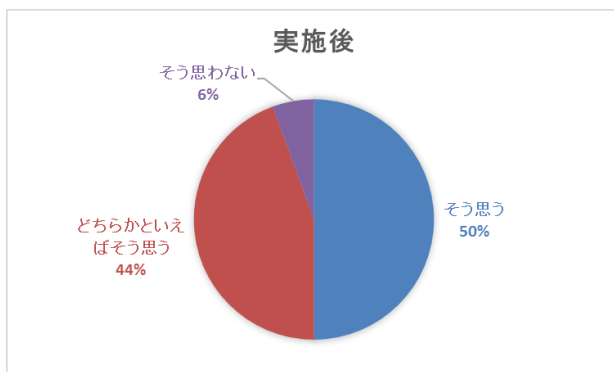
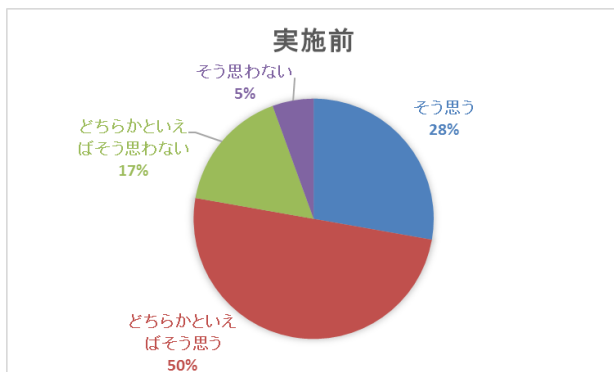
(1) がんになっても生活の質を高めることができる。



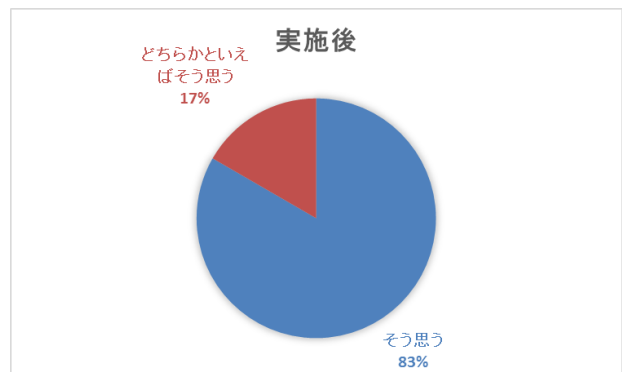
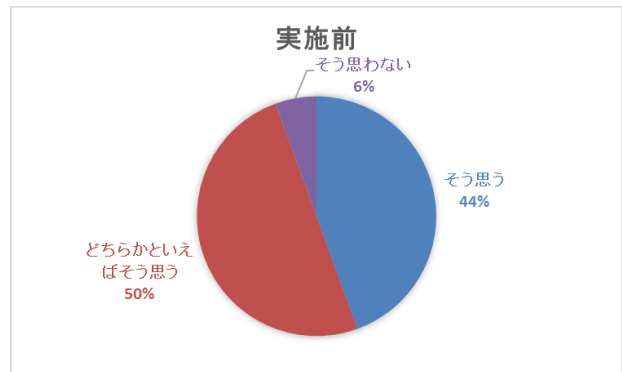
(2) がんの治療方法はいくつかあるが、医師がきめるものである。



(3) がんと健康について、まずは身近な家族から話ろうと思う。



(4) がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。



#### 4 実践の成果と課題

##### 〇〇成果〇〇

- 生徒自身の疑問に対して、実際に講師の方の経験談や考え、思いなど聴くことで、がん予防に対して自分事として考えたり、がん患者の生活についてイメージとのズレに気づいたりし、意欲的に考えることができた。
- がん予防に対して、一次予防だけではなく、広い視野を持ちながら、がんに関連する課題について、自分なりに考え今後の生活に生かそうと意欲を高めていた。

##### ◆◆課題◆◆

- 今回の授業を通じて、外部講師を招いて専門的な話や経験談を話していただくことは、生徒にとって有意義な時間となり、今後もこのような取り組みをしていきたいと感じた。今後も継続していくためには、年間指導計画を見直し、年間を見通し計画的に進めていくことが必要である。